

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 29 日現在

機関番号：23803

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884037

研究課題名(和文) プルースト＝ラスキン『アミアンの聖書』『胡麻と百合』電子版と註釈の作成

研究課題名(英文) Proust et Ruskin

研究代表者

浅間 哲平 (ASAMA, Teppei)

静岡県立大学・国際関係学部・講師

研究者番号：00735475

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：フランスの作家マルセル・プルースト(1871-1922)は、イギリスの美術史家ジョン・ラスキン(1819-1900)の『アミアンの聖書』(1885, 1904)と『胡麻と百合』(1865, 1906)を翻訳した。本研究は、プルースト・ラスキン研究における先行研究を調査・収集し、ラスキンの原文とプルーストの翻訳を対照しテキスト上で同時に閲覧できるようにすることを目的としたもので、一定の成果を挙げた。

研究成果の概要(英文)：Marcel Proust (1871-1922) translated two works by John Ruskin, "The Bible of Amiens" (1885, translated as "La Bible d'Amiens" (1904)) and "Sesame and Lilies" (1865, translated as "Se[with accent aigu]same et les Lys" (1906)). Our project is to prepare a bilingual and critical edition of "The Bible of Amiens" and of "Sesame and Lilies".

研究分野：フランス文学

キーワード：プルースト ラスキン

1. 研究開始当初の背景

フランスの作家マルセル・プルースト (1871-1922) は、イギリスの美術史家ジョン・ラスキン (1819-1900) の『アミアンの聖書』"The Bible of Amiens" (1885, translated as "La Bible d'Amiens" (1904)) と『胡麻と百合』"Sesame and Lilies" (1865, translated as "Sésame et les Lys" (1906)) を翻訳した。

2. 研究の目的

本研究は、ラスキンの原文とプルーストの翻訳を対照し、電子テキスト上で同時に閲覧できるようにすることを目的とする。

また、プルーストはこの翻訳をするにあたり、序文と註をつけ、ラスキンの他の書物を引用し、当時のラスキン研究の成果に言及している。本研究は、これらのプルーストの引用や言及がどの書物からなされたものであるのかを網羅的に調査することをもうひとつの目的とする。

日仏英のプルースト・ラスキン研究の成果を総合的に検証し、これまでの紙媒体ではなしえなかった網羅的な註解を付けたテキストを校訂することを目指したい。

3. 研究の方法

プルースト・ラスキン研究における先行研究を調査・収集する。広くプルーストとラスキンに共通する思想をあつかうものをすべて対象とするのは不可能なので、プルーストが読んだラスキン関連文献の典拠について論じるものを網羅的に見ることを目指した。

まずは日本語で書かれた論文と日本の大学図書館所蔵の他言語で書かれた論文を収集する。大学間相互貸借：ILL と電子ジャーナルを利用することで、日本において手に入るものはこの段階で手に入れ、目を通すことにする。日本語で書かれた論文は、海外の研究者がアクセスすることが困難であることを鑑み、特に慎重に検討した。また、この分野での欧文の先駆的研究として Jean AUTRET, "L' influence de Ruskin sur la vie, les idées, l' œuvre de Marcel Proust" (1955) や "Ruskin and the French before Marcel Proust" (1965) があるが、この研究を資料整理の出発点とした。

次に、日本で手に入らない研究論文につい

て、BnF (フランス国立図書館・パリ) およびラスキン・ライブラリー (ランカスター大学附属) に行き、収集・調査を行うことを計画した (結果については研究結果を参照のこと)。またプルーストが参照していたことがわかっているラスキン関連の書籍で購入するのが難しいもの (例えば雑誌 Bulletin de l' Union pour l' Action Morale など) はこの段階で調査し、複写することを計画した。

最後に C.N.R.S. (国立科学研究センター・パリ) 内、I.T.E.M. (近代テキスト・草稿研究所) で、プルーストの草稿を見ることを計画した (結果については研究結果を参照のこと)。

4. 研究成果

初年度は日本語で書かれた論文と日本の大学図書館所蔵の他言語で書かれた論文を収集することに専念した。大学間相互貸借：ILL と電子ジャーナルを利用することで、日本において手に入るものをこの段階で手に入れることができたのは作業の効率の上で有効であったと思う。特に日本語で書かれた論文は、海外の研究者がアクセスすることが困難であることを鑑み、慎重に検討することにした。その結果、これまでのプルースト・ラスキン研究の成果については一定の範囲内で整理することができた。

日本で手に入らない研究・論文については BnF (フランス国立図書館・パリ) などでの調査を予定していたが、フランスの書店から購入することで多くを取り揃えることができた。特に J. Bastianelli 編纂による『アミアンの聖書』『胡麻と百合』(2015) から新しい知見を得ることができた。

また、C.N.R.S. (国立科学研究センター・パリ) 内、I.T.E.M. (近代テキスト・草稿研究所) でプルーストの草稿を見ることを予定していたが、プルーストによるラスキンについての草稿が記されたノートは、2015年現在に至るまで BnF (フランス国立図書館・パリ) による電子図書館ガリカ (Gallica) で電子化され、I.T.E.M. において閲覧するよりもはるかに精度の高い形で研究できるようになったことから、この電子版をもとに研究を進めることができた。研究対象とした資料は、フランス国立図書館によって番号付けされた以下のものである。NAF16617, 16618, 16619, 16620, 16620, 16621, 16622, 16623, 16624, 16625, 16626, 16627, 16628, 16629, 16630, 16631。

本研究の特徴として強調しておくべき方法は、プルーストが 1900 年 1 月 27 日に初

めてラスキンについて発表した記事(「ジョン・ラスキン」“La Chronique des arts et de la curiosité”所収)にはじまり、1909年に書かれたことがわかっているプルーストによるラスキン論まで9年の間に作家によって書かれたラスキン関係のテキストを、翻訳を含めてすべて研究対象としたことにある。プルーストは『アミアンの聖書』と『胡麻の百合』の翻訳につけた序文と註釈で既に自分が書いたテキスト(新聞記事や雑誌記事)を利用している。この再利用は断片的であると同時に、ときには改変されるといったように、全体像を把握するのが極めて難しいものである。本研究が目指した電子テキストは、実際にどのようにプルーストがラスキン関連の文章を書き進めて行ったのか、またその際に既に存在したラスキンのフランス語訳や批評文をどのように利用したのか、といったことが容易に把握できるように提示するものである。そのような目標を達成するためには、プルーストの翻訳の註が既に書かれた文章の再利用である場合(他人が書いたものと自分自身が書いたものを含む)、その文章へ移動できることが望ましく、該当期間に書かれたプルーストのテキストをすべて対象とすることが必要だった。またフランス語の横に英語原文をおくことで、プルーストが翻訳をするにあたりどのような用語を採用し、どのような構文を選んだかがすぐに分かるような形で見せることが可能となった。

フランス語のプルースト全集(プレイヤッド版)では、プルーストの『アミアンの聖書』と『胡麻と百合』翻訳を収録しておらず(従って序文の一部と註釈は収録されていない)。また作家によるラスキン関連のテキストも年代順に掲載されていないために、プルーストのラスキン観が時間とともに変容していく過程をとらえることができていない。また一方で、プルースト訳『アミアンの聖書』と『胡麻と百合』の校訂版(前者:1986年、2007年、後者:1987年、前述のように2015年に両者の新校訂版が出版された)は、普及版の書籍であり紙面に限界があるために、英語原文と専門的な註が十分につけられていない。本研究が目指した電子版という方法により、プルースト・ラスキン研究の飛躍的な進捗を期待できるのである。

以上のような校訂版の作成は、道半ばの段階である。しかし、この作業を通して、プルーストのラスキン観の全体を改めて検証する機会になったことから、この研究の成果をいくつかの論考として発表することができた(発表予定の論文もある)。ここでは、本研究によって明らかになったプルーストの典拠について新しい発見を報告すると同時に、当時のラスキン研究の中で(さらには美学研究一般の中で)プルーストの論考が相対的にはどのような位置をとるものであっ

たのかを明らかにした。例えば、日本でも伊藤邦武『経済学の哲学:19世紀経済思想とラスキン』(2011)などにより、ラスキンの社会思想が改めて紹介されたが、プルーストはラスキンの社会思想についてほとんど言及せず、その美学思想のみに関心をもっていたという通説がある。しかし、本研究による調査で、プルーストは翻訳の註釈のなかで何回かラスキンが通貨について言及していることに触れていることが明らかになった。プルーストがジャック・バルドゥ“Le Mouvement idéaliste et social dans la littérature anglaise au XIX^e siècle. John Ruskin [19世紀英国文学における理想社会運動:ジョン・ラスキン]”を読んでいたことを考えれば、また当時の美学が社会運動と切り離せないものであったことを念頭に置くならば、プルーストのラスキン観にべつ方向から光をあてることができたと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

浅間哲平、解題、外国語論集、査読無、20、2016、109-113

浅間哲平、プルーストにおける読書の問題、仏語仏文学研究、査読有、49、2016、1-16

浅間哲平、ラスキンを書き直すプルースト 慈愛のイメージをめぐる、国際関係・比較文化研究、査読無、15-1、2016、1-25

〔学会発表〕(計1件)

浅間哲平、フランス文学から見えてくる世界、広域ヨーロッパ研究センター、2015年6月7日、静岡県立大学(静岡市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

アウトリーチ活動：浅間哲平、フランス文学の描く旅、公開講座、2015年10月10日、浜松市地域情報センター（浜松市）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅間哲平 (ASAMA Teppei)
静岡県立大学・国際関係学部・講師
研究者番号：00735475

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：